

2024年6月19日

日本船主協会 海事人材部

率直な意見交換を通じて関係を強化
～海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催～

日本船主協会では2008年7月より人材確保タスクフォース（TF）を結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しており、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ（WG）」を置いて具体的な活動を進めています。

この度、2024年6月19日（水）に内航WGが中心となって、海技教育機構本部および傘下の海上技術学校・海上技術短期大学校・海技大学校の各教員と当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について意見交換する「情報交換会」を開催しました。

6月19日に開催した同情報交換会は、今回で15回目となり、今年度もオンライン形式での開催となりました。当日は海技教育機構本部、館山・口之津の海上技術学校、小樽・宮古・清水・波方・唐津の海上技術短期大学校、海技大学校の計8校の教員と内航海運事業者16社から26名を含む総勢39名が参加しました。

始めに、海技教育機構本部より入試状況や就職状況等の機構の概要説明があり、続いて内航海運事業者より各社の概要紹介が行われました。

次に、海技教育機構側から提起された「船員という職業のアピールポイント」、「女性や年齢の高い学生の採用」、「早期離職者の割合」等について夫々意見交換が行われ、優秀な人材の確保や供給源の多様化等について各社の取り組みや現状が共有されました。最後に、内航船社側から事前に寄せられた質問に対し、機構側より生徒からのアンケート結果や学生の心を掴む具体的なアドバイスや事例等が共有されました。

本情報交換会では海技教育機構および内航WG双方より活発な意見交換が行われ、職業・企業を選択する上でのミスマッチを防ぐためにも、情報交換・共有を継続することが非常に重要であると再認識された機会になりました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後も優秀な日本人海技者確保に向け、関係各機関と協力して幅広い活動を継続していきます。